

多賀工業会 関西支部 会報

●令和元年5月
●事務局/〒662-0811

●発行人/萩原信男
西宮市仁川町5-3-62 TEL 080-7016-9061

●編集責任者/川上啓二
●E-mail nobuo12341234@yahoo.co.jp



家族で楽しむ行楽地(和歌山県)：「和歌山マリナーシティ」

和歌山マリナーシティは、オープンから25周年を迎える遊びが詰まったリゾートアイランド。テーマパークで遊んだり、市場でお土産を買ったり、釣りも楽しめちゃう！遊び疲れたら、海の見える天然温泉や、リゾートホテルでゆったりくつろいで！その他にも、海や和歌山に関わる施設がいっぱいあるよ。

和歌山を観光して遊ぶなら、マリナーシティへおいでよ!!

川上 啓二 (機械S50)

住所/〒641-0014 和歌山県和歌山市毛見1527 TEL 073-448-0011

交通アクセス/車の場合：阪和道・泉佐野JC経由で、海南インターチェンジを降りて約5km。

公共交通機関の場合：南海・和歌山市駅、JR和歌山駅より、バス30分。JR・海南駅よりバス15分。

目次

●表紙 家族で楽しむ行楽地「和歌山県」：和歌山マリーナシティ	
●目次	2
令和元年度 関西支部の活動体制	
●令和元年度の総会案内	3
●会員ひろば	4
「マレーシア旅行記」 柳沼 英哉 (化学 S42)	
「シンガポール旅行記」 鈴木 孝三 (精密 S45)	
「モータ技術に携わって」 小串 正樹 (院理学H27)	
●平成30年度の決算報告案	10
●平成30年度下期の会費納入者・寄付ご協力者	11
支部会費納入のお願い	
●第22回 関西支部ゴルフ会 (ジャパクラシック)	12
セイリング同好会	12
●第14回 ウォーキング同好会 (東福寺、淀川河川公園)	13
●トピックス・大学の話	15
●編集後記	

令和元年度：関西支部の活動体制

- *支 部 長：萩原 信男
- *幹 事 長：川上 啓二 (兼 副支部長)
- *副 支 部 長：赤塚 修三
- *会 計：高橋 昌之 田桑 克己
- *会 計 監 査：伊勢山 宏
- 役員会 (顧問、幹事)
支部運営の重要事項の報告、相談、指導、助言 (2回開催/年)
- 幹事会 (幹事19名)
支部運営のための総括的な事業の企画・活動・議案立案 (6回程度開催/年)
- 会報編集委員会 (委員長：川上 啓二、委員補佐：伊勢山 宏)
年2回 (春・秋)の関西支部会報の企画、草稿、編集、出版
- 名簿編集委員会 (委員長：川上 啓二)
約510名の関西支部会員の転出入管理、関西支部の名簿管理
- 総会準備委員会 (委員長：船田 順久)
総会の企画立案、会場手配などの諸準備、運営
- 支部活性化委員会 (幹事全員)
関西支部活動の中長期計画、会員のサービス向上、新入会員増加・交流促進
- 同好会活動
ゴルフ同好会 (春・秋・関西中部対抗戦；世話役：伊勢山・鈴木)
ウォーキング同好会 (3～4回程度/年；世話役：田桑)
セイリング同好会 (月1回程度；世話役：萩原)

令和元年 関西支部総会案内

令和元年の関西支部総会を下記の要領で開催いたします。

会員の皆様、万障繰り合わせ、お誘いあわせてぜひ参加して頂きますようにご案内いたします。

日 時：令和元年6月22日(土) 12:30~16:00

会 場：松心会館 2階 (研修室)

〒571-0055 門真市中町1-19

T E L. 06-6907-4812

交 通：京阪電車「門真市駅」下車 徒歩約5分 (大阪駅~京橋~門真市 約25分)

大阪モノレール「門真市駅」、徒歩約7分

行事予定：

関西支部総会 12:30~13:10

特別講演会 13:20~14:00

懇親会 14:00~16:00

〔特別講演〕

講 師：伊藤 隆康 氏

演 題：「人生100年時代の後悔しない生き方

— おもしろ開発事例を交えながら —

〔講師略歴〕

1956年大阪府豊中市生まれ。

茨城大学工学部卒業後、ホシデン株式会社開発研究所で10年間勤務。その後、パナソニック制御技術開発研究所で16年間商品開発に従事。2004年に独立して中国と日本に投資コンサルティング会社を設立し、日本企業の中国進出支援事業を始める。2007年に株式会社アシステックを設立し、民間企業や機構、大学などの研究開発部門を中心とした開発・設計支援業務、また生産機械の開発業務を推進し現在に至る。

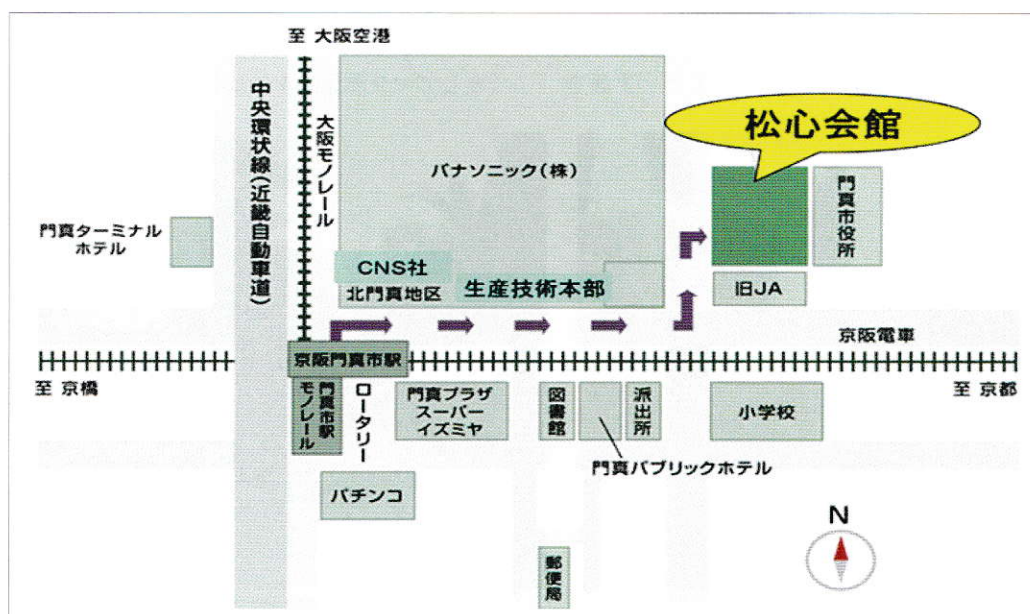
関西支部総会ご来賓 (予定)

多賀工業会 会長

中部支部長、中国・四国支部長

懇親会参加費：8,000円

(平成21年度以降の卒業生、又初めて出席される方は4,000円) 同期の方やお知り合いの方に声をかけて頂き、大勢のご参加をお待ちしています。



お 願 い

出欠のご返事は同封のハガキにて6月10日(月)までに必ずご返事ください。
名簿整理の為、出欠にかかわらず必ず返信してください。

マレーシア旅行記

柳沼 英哉 (化学 S42)



昨年1月27日から2月2日までマレーシア観光旅行に行きましたので、その旅行記をまとめました。

この旅行はヒューンサイエンス財団の友人の計画により実行されました。参加人数は4名でしたが、小生は成田から、残りの3名は関空からそれぞれ出発しました。マレーシア航空は、行方不明機事故もあり不安を感じましたが、無事合流でき安心しました。合流後に予約してあったリムジンサービスでクアランループル（以下KL略す）にあるPark Royal Kuala Lumpur Hotelに大幅に遅れ、22時頃に到着しました。このホテルは、KLの中心地であるブキ・ビタンタ（Bukit Bintang）にあるため、近くのレストランで夕食を摂りました。マレーシアは、多民族国家で、マレー人が60%、中国人が25%、インド人が10%を占めています。このレストランの従業員はその何れでも無い印象でした。周りを確認するとアラブ人が喫煙する「水煙草」を提供しているテーブルが多く認められましたので、従業員も客もアラブ人が多い感じました。ただ、お酒もピザも提供していたのが不思議でした。お客と少し話をしましたが、やはりアラブ人で、「水煙草」はとても美味しいと言い、吸い口を渡されましたが、観察したのみで、吸うのは遠慮しました。大幅に到着が遅れたため、第1日目の観光は全て取り消し、本日はこれで終了しました。

第2日目は、前日の遅れを取り戻すため、8時にホテルを出発し、KL Sentral（英語ではcentralです）駅経由で観光の中止地に行きました。マレーシアは、アラビア語を

捨て英語を採用しました。しかし、マレーシア独特のスペルや発音があるためマレーシア英語と呼ばれています。KTM（KLの高架鉄道）でMasjid Jamekama（マシジェット・ジャメカマ）駅まで移動し、ムルデカ（独立の意味）広場、旧連邦事務局ビル（スルタン・アブドウル・サマドビル）、イスラム寺院（マスジッド・ジャヤメ）などを見学しました。これらの建築物は、イスラム建築とムーア及びムガル様式の影響を受けたレンガ造りの歴史ある素晴らしい建物でした。イスラム寺院（マスジッド・ジャヤメ）は、1909年に完成したKLにある最古のムーア様式の建築物です。イスラム様式も見て取れ、配色も含め素晴らしい寺院です。しかし傷みが激しく補修中でしたが、歴史を感じる建築物でした。

旧連邦事務局ビルは、政府機関管轄のビルですが、レン



国立モスクと貸与された礼拝着

ガ造りでビクトリア、イスラム・ムーア、ムガル各様式を見事に調和させた代表的な素晴らしい建築物です。マレーシアは、シンガポールを含め1948年イギリス連邦の一員としてマラヤ連邦を結成しました。しかし、マレー人と中



旧連邦事務局ビル



最古の寺院マスジッド・ジャヤメ

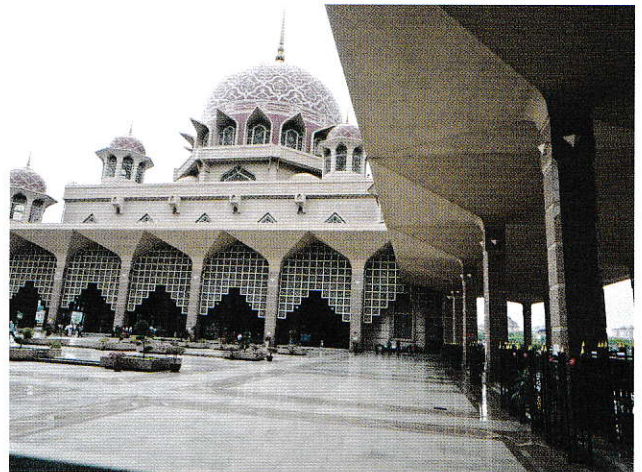


バドゥー洞窟の入り口

国人の衝突が繰り返されたため、シンガポールを追放して1965年にマレーシアとして改めて独立しました（イギリス連邦の一員は変わらず）。

マレーシア、特にKLは、鉄道網も発達していて移動はかなり便利であり、その中心となる駅がKL Sentral駅でそこからほとんどの路線が放射状に敷設され、市内は高架路線になっています。このKL Sentral駅からKTM路線でKL駅へ移動し、国立モスク Masjid Negara（マスジド・ヌガラ）を見学しました。マレーシアはイスラム教国であり、至る所にモスクが存在します。KLの代用的なモスクはこの国立モスクです。石造の白色の巨大なドーム状空間を有する建築物でした。ドームにはステンドグラス様の装飾が施され光り輝く様子は素晴らしいものでした。このモスクへの出入りは自由なのですが、土足は厳禁であり、また服装の規定もありそれに従わなければなりません。規定外の服装の場合は、入り口で礼拝用の着物を借りることが出来ます。日本人の観光客もかなり多いようで、我々の前に並んでいた若い二人連れの女性は、群馬県からの観光にきていました。

マレーシアで最も近代的建築物Petronas Twin Towerを見学をしました。この建物は、どんなガイドブックでも表紙を飾っており、88階建て（高さ452m）のビルが2棟建てられ、41階と42階がスカイブリッジで繋がっています。近くで見上げるとほんとに高い建物だと感じます。日本ではサンシャインビルが60階建てですので、其れより20階以上高層です。この建築物は、1998年にマレーシア国有石油会社ペトロナスが建築しました。この建物には、主要テナントとして伊勢丹や紀伊國屋が入居しています。スカイブリッジや86階の展望フロアのみが有料です。予約は当分の間完売とのことでした。



ピンク・モスク

本日の最後の観光は、セラゴン川の蛍観賞でした。この蛍観賞は川岸に造られている船溜まりに係留してある船に乗り、蛍の飛来する川岸を移動しながら観賞します。蛍の種類は平家蛍とのことでしたが、川岸から離れたところに群生していて、夜になると川岸に多く生えているマングローブを食べるために大量に飛来するとのことでした。たしかに大量の蛍が飛来し光っている様子は圧巻であり、それが延々と続く様は日本で見る事が出来ない光景でした。写真がうまく撮影できなかったのが心残りでした。日本での蛍観賞は、夏のみですが、マレーシアは常時観賞できることに驚きました。乗船客のほとんどが日本人で、日本人でなければ余り興味を持たないのだろうとも思えました。

第3日目は、ヒンドゥー教の聖地「バドゥー洞窟」及び、首都のプトラ・ジャヤ（ジャヤは町を意味する言葉）へ移動しピンク・モスクなどの見学を楽しみました。

マレーシアは、人口の約10%がインド人でありヒンドゥー教の影響も多く受けており、建築物にもムガル様式が混合しています。このヒンドゥー教のマレーシアでの聖地が「バドゥー洞窟」であり、19世紀末にヒンドゥー教寺院が開設されたのが始まりです。巨大な洞窟であり、ヒンドゥー教の神話に基づく展示や壁画が飾られています。この洞窟に到るには272段の急な石段を上らなければ成りませんが、途中に多くの猿が観察でき、洞窟内には蝙蝠の大群が日中でも飛び回っていました。かなり広い洞窟でヒンドゥー教の神社が建立されており、多くのインド人が祈りを捧げていました。確かに一見に値する施設と思いました。

ヒンドゥー教徒は、裸足で歩いており、洞窟へも裸足で登っていました。我々は靴を履いていましたが、確認したところ問題無いとのことでした。しかし、階段途中でイン

ド人家族ずれの可愛い少年に注意を受けました。即ち、聖地であり素足でなければいけないと。

この聖地では昨日までヒンドゥー教の大祭タイプーサムが開催されていました。この大祭では、信者が体のあっちこっちに針や鉄串をさして行列するのが有名です。かつては、インドでも同様の行事が行われていました。体に針や鉄串を刺すことは、危険であり、本場のインドでは禁止されていますが、ここでは今も残っているとのことでした。

首都のプトラ・ジャヤへKTM高速鉄道で移動し、入館は出来ませんでした。きれいなPutra Mosque（プトラ・モスク、通常ピンク・モスクと呼ばれている）の外観を見学しましたが、ピンク色の素晴らしい建物でした。プトラ・ジャヤは、首都として人工的に建築された都市であり、プトラ・ジャヤ湖なる広大な人工の湖もありクルーズを楽しみました。KLへ戻りKL TowerでSky Boxを経験しました。KL Towerは421mの電波塔で世界第4位の高さです。入場料は、3,000円とマレーシアにしては高めとの印象でした。地上276mに展望台がありますが、なんとオープンであり風に吹きさらされているのに吃驚しました。日本ではあり得ない光景でした。この展望台にSky Boxなる下方が丸見えの総ガラス張り定員3名の出っ張りが造られおり、恐る恐る試してみましたが、足下から276m下方の地上が丸見えで緊張しました。しかし慣れると結構楽しめることが分かりました。

第4日目は、Malacca海峡に面したMalaccaのChina Townなどの見学でした。Malaccaはポルトガル人によって最初に開発されましたが、その後に中国人が多く移住したため、大きなChina Townが存在しています。この地方は、ババ・ニョウニャ文化の中心地で、チャン家の私邸博物館を見学しました。ババ・ニョウニャとは、中国人男性とマレー人女性が結婚して生まれた子孫のことです。ババは男性、ニョウニャは女性のことです。長期間融合してババ・ニョウニャ文化が生まれた様です。このチャイナタウンの通りに面した家々のタイルが剥がされており不思議に思いましたが、ポルトガル時代の青タイルで極めて貴重高価なので盗まれるとのこと、チャイナタウンらしいと感じました。このチャイナタウンには鉄鉱石とセメントで築いたポルトガルのサンチャゴ砦（ポルトガル人はどこでもサンチャゴ名の砦を築きます、笑えます）とセントポール寺院の遺跡があり、例によって西欧人の悲惨な行為の歴史が解説されていました。セントポール寺院の一部に鹿児島から来て活躍した日本人の像が建立されていたのに驚きましたが、故事来歴の記録は全くありませんでした。

第5日目は自由行動であったので、KLのパビリオン



日本人の像

（ショッピングセンター）を巡りましたが、東京ストリートや高島屋などが存在し、日本との関係が深い印象でした。確かに日本企業の進出数が最多で、他国に比し群抜いているようです。また、市中の自動車も殆ど日本製であり、セブン・イレブンも至る所にありました。

マレーシアの食事、町並みの様子、人間性、物価、高速道路の様子、中華街の印象、主たる産業や歴史、マレーシア王国の特殊性、生活の様子など種々見たり聞いたりしましたが、長くなりますので割愛しました。機会があれば、報告したいと思います。

シンガポール旅行記

鈴木 孝三（精密 S45）



2年前の米国旅行（1ヶ月）に続き、2018年2月から約1ヶ月間、寒い日本を離れ暖かいシンガポールへ6年ぶりに再度家内と気ままな旅をしました。

この時期に海外旅行に行くことに決めたのは、

- ① UAマイレージを使用。
- ② 暖かく治安が良い国を選択。
- ③ 同じホテルに滞在し、水泳ができるプールがあり、交通の便がよく、料理も美味しい。

などの条件で約6ヶ月前から探し始め、3ヶ月前にホテル、旅行日程を決めました。

滞在が長期のため、最初はホテル周辺を探索し、快適に1ヶ月間を過ごせるよう計画を立てました。結果、ホテル

をチャイナタウンに近いクラーク・キーに決めました。どの場所に行くにもアクセスが良く、6年前にも近くに滞在し土地勘もあり、ほとんど歩いて多くの観光地に行ける利点がありました。観光は一日一箇所を基本にゆったり行動することにしました。

到着後、①ホテルでの朝食は、その日の宿泊客に合わせたバイキングスタイルの料理でした。②観光は、まず4箇所（ジュロンバードパーク（写真A）、ナイトサファリ、シンガポールZOO、ボタニックガーデン）を決めました。③前回訪れる事が出来なかったシンガポール大学（写真B）のミュージアムの見学と大学のイベントを調べました。



写真A：ジュロンパーク

など気ままな計画を立て、温暖な気候（25度～35度C）なのでショートパンツ、半袖で観光、散策をしました。

まず驚いたのは、6年前と比較して地下鉄の拡大延長、整備が進み、綺麗で安く（日本の1/10）、便利になっていました。また、電車内での若者のマナー（年配者、旅行者への思いやり）の良さを感じました。



写真B：シンガポール大学

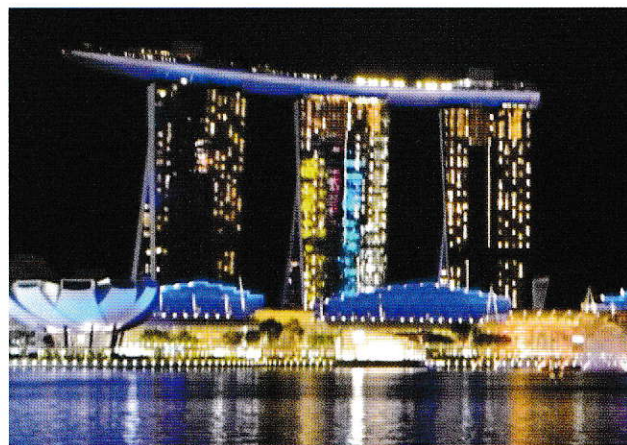


シンガポールのシンボル マーライオン

日本製品への信頼度が高く、日本人への対応は丁寧でした。これは、これまで日本がシンガポールに対しての対応の良さから来ているようです。

シンガポール大学（約7回訪問）のグローバル教育、学生の対応、勉強姿勢はさすがアジアNO1の大学だと感じました。時間の有るときは、無料バスで駅とキャンパス内を移動し、カフェテリアで安く美味しい料理を堪能し大学の施設、その周辺を散策し学生と交流しました。

日本で経験できない点は、ホテルでは、日本人は我々だけで、グローバル（北欧、ロシア、中東、中国、マレーシア、他）な滞在者で、朝食時のマナー、会話、慣習（中国人は周りを気にしないで余る程皿に盛る）の違いを感じ、特にフランス人、ドイツ人の洗練されたマナーは参考になりました。また、北欧、ロシアの宿泊客は、日光浴を屋上のプー



写真C：マリナベイサンズ夜景

ルで楽しんでおり、美しい若い女性は目の保養になりました。彼らとの会話を通じて、話題や文化の違いを感じました。

街もホランドビレッジ、チャイナタウン、ブギス&アラブ、リトルインディア、等があり、中華系が70%でマレー人、インド人、ヨーロッパ人、等の多彩な人種で、街の賑わいも民族の増加と比例しており、チャイナタウン、インド人街が発展していました。

ギャンブルもマリナーズベイサンズ(写真C)、セントーサ島でしました。セントーサ島の賑わい、発展を、日本のIR施設計画の参考にするために、日本政府が見学したのは正解のようです。セントーサ島では、無料の海水浴場(施設が充実)(写真D)で2度ほど泳ぎ、そこでは世界中からの観光客が日光浴、水泳を楽しんでいました。大阪で万博開催が決定し成功を期待したいです。

街中にお年寄りの姿があまり見ないので、老人が多く住んでいる、最近開発された北のボンゴルに行きニュータウンを見学しました。途中、ループラインに乗っている時、私たちが日本人だと分かり、親切なおばさんが案内してくれ、春節なので、お年玉(1人2ドル入り)とお土産まで頂き、親切な対応に感激いたしました。団地広場には、筋トレ施設があり、集会場の中に入ると、シニアスケジュール(インターネット教室、情報交換、料理集会、健康診断、等)があり、全て無料でした。しかし80歳以上でも働ける人は働いているようでした。働けなくなると、近くの親族や近隣国(マレーシア、タイ、インド、等)の若い女性がヘルパーとして付き添っていました(今後の日本にも必要と感じた…)。

近くのチャイナタウン(東方美食)では美味しい食事(スープ、野菜炒め、ポークの天ぷら、ガーリックチリ、酢豚、等:味付けは絶品)を楽しみました。中華料理は安く、ボリュームがあり、種類も豊富でした。現地人は共働きで、国土も狭く、高層マンション暮らしなので外食を楽しみにしているようです。日本人は、食べ残しをしないのが美德、彼らは食べ残すぐらい多くを注文するのが習性のようなので。私たちは、残さず全部食べるので、お前たちは日本人だな、と言われました。

今回の旅行で感じ、参考になったことは、長期旅行は現地の人々との交流、文化、習慣、伝統、の見聞を深めるのに、最適だと思います。日本がシンガポールに対し、いかにグローバルに活動、貢献してきたかがよくわかりました。

アジア文明博物館では、陶磁器の歴史を見学し、日本に伝わったルートを知り、見ごたえがありました。シンガポールは、周辺の国と上手く融合しながら発展しており、先端部門はシンガポール人で、汚水処理、公園の伐採・水遣り、



写真D: セントーサ島(海水浴場)

建設業、介護サポート、等ハードな仕事は、インド人等の外部人材を有効に活用していました。

予期せぬ出会い、観光の穴場、シンガポールの生活実態、発展の歴史など、大変興味深く楽しい滞在になりました。健康な内に、これからも旅行を楽しみたいと思います。

帰国後、近くの同志社(京田辺校)の公開講座、演奏会、等に参加し開放している食堂、喫茶に時々行きます。また、東京大学、京都大学の公開されている食堂、喫茶を同様に訪ね、食事、学生達の行動を見ていますと、シンガポール大学と比較してしまいます。

日本の大学も国際化が進み、優れた学生や多くの海外留学生を受け入れて勉学に励んでいます。多分、勉学では劣っていないと思いますが、国際性では、英語が母国語、滞在中の学性の比率、就職先、その後の活躍の実績では、アジアの中で、シンガポール大学が優れている評価です。日本の大学も、海外から優れた学生がもっと集まれるような魅力づくりには参考になる点が多々あるように思いました。

モータ技術に携わって

小串 正樹(院理学H27)



私は、2012年4月から2015年3月までの3年間、理工学研究科博士後期課程生産科学専攻の社会人特別選抜コースで学びました。この間、故塩幡宏規先生(多賀工業会前会長)に終始ご指導を賜り、学位を取得しました。

私の仕事の経歴ですが、1977年から2009年まで総合電機メーカーに勤務し、その大半の期間、モータ技術に関わる仕事を行ってきました。2009年から2018年までは総合精密部品メーカーに勤務し、前職とは業界や分野、仕事内容は異なりま

すがモータに関わってきました。そこで本稿では、モータ技術に携わってきた技術者として執筆させていただきます。

まず、モータの役割や歴史について述べます。モータは電気エネルギーを機械エネルギーに変える機器で、人間の生活を支えるために無くてはならないものと言えます。モータは18世紀に発明されました。モータのおおもととなる電磁気関係の原理や法則には、右ネジの法則、フレミングの法則などがあり、今でも中学や高校の授業で習われていると思いますが、これらの原理や法則は、今から二百年近くも前に発見されたものです。このようにモータの技術の歴史はかなり古いですが、近年の材料技術や半導体・制御技術の発展、そしてモータ構造そのものの技術革新を踏まえ、今でも進化を続けていると言えます。

次にモータの用途について概略を説明します。モータはほとんどの場合、単独で使用されるのではなく、製品を動かすデバイスとして、製品に組み込まれて使用されます。普段は目にふれないところに組み込まれている機器なので馴染みが薄いかもしれませんが、上述したように電気エネルギーを機械エネルギーに変える機器なので、動くものにはほとんどモータが使われていると言っても、過言ではありません。

モータは、近年、家電分野、映像・音響分野、情報分野、通信分野、そして車載分野などで幅広く使用され、その用途や市場はますます広まっています。われわれの日常生活になくはならないデバイスと言えます。

続いて、私たちの生活空間におけるモータの製品への具体的な使用例や、使われている概略の台数についてもアバウトですが述べてみます。私は今、リビング兼書斎でこの原稿を書いています。この生活空間すなわちリビング兼書斎とその直近の空間で、何の製品にモータが使われているかを改めて見渡してみました。

目の前のデスクトップパソコンでは、HDDやDVDの駆動、筐体内を冷却するためなどに複数のモータが使用されています。また原稿を印刷するためのプリンターでは、紙送り用、インクヘッドの移動用、スキャナー用などにモータが使用されています。机の傍にあるノート型パソコン、シュレッダー、モバイル端末などにもモータが使われています。

周囲を見渡すと、使用頻度は高くはないですが昔ながらのレコードプレーヤーやカセットデッキ、そしてDVDプレーヤーもあります。また、部屋に置かれている家電製品を見ると、エアコンの室内機では、吹き出し口から風を送るためのファンや、風の向きを上下に変えるルーバーの駆動、そしてお掃除ロボットの駆動にモータが使用されてい

ます。エアコンの室外機では、コンプレッサの駆動、冷却ファン駆動にモータが使用されています。あと、冷蔵庫、掃除機や換気扇などがあります。以上、リビング兼書斎だけでも、30台以上のモータがありそうです。加えて家族それぞれの部屋や、台所、浴室、トイレなどがあるので、住宅全体で使用されているモータは100台をはるかに超えると言えます。

生活空間に加えて、生活の必需品と言える車載分野では、20世紀の時代からラジエーター、ABS、カーオーディオ、カーナビ、カーエアコンなどに多くのモータが使用されてきました。近年、モータを搭載した電気自動車、ハイブリッド車の普及が進み、自動車の電動化が本格化され、高級車では100台を超えるモータが使用されています。

このように、生活の便利さやライフスタイルの多様化に伴って、モータも発展し台数も増えてきたと考えられます。今後、家電分野や車載分野に加え、医療、健康、ロボット分野などの成長分野で、市場が拡大され、また新興国での電化製品や各種インフラの整備とともに、モータ台数の更なる増加が見込まれています。

以上、これまで述べてきたように、モータは私たちの生活に不可欠となり進化し続けていますが、課題もあります。なかなか実感がわかないかもしれませんが、モータの総消費電力は、日本の総消費電力の50%を超えていると言われています。地球環境の保護やエネルギー問題の視点から、モータの消費電力低減の実現は重要であり、そのためにもモータの高効率化を重要課題として、様々な研究や技術開発が行われています。

またモータは、市場から高効率、小型、高出力化、高性能化とともに、組み込まれた機器の騒音を低減するために、低振動・低騒音化が要求されています。モータが使用される各用途の機器は、高出力化・低剛性化の傾向にあり、これに伴い、モータの種類によらず、振動騒音が発生しやすくなっています。モータに対する市場の共通した要望は、高効率、小型、高出力、低振動低騒音などですが、小型・高出力と低振動低騒音はトレードオフの関係にあり、低振動低騒音化も重要な課題として取り上げられており、その課題解決も要望されています。

このようにモータは目立たないですが、世の中になくはならない縁の下の力持ちと言えます。私は今65歳で、上述の企業を退職した後も、別の形でモータに携わっています。今後、大学で学んだことも糧にして、一生勉強の気持ちを持ちながら、モータが抱える課題の克服にチャレンジし、世の中に貢献できればと考えています。

多賀工業会関西支部 平成30年度決算書 (案)

H30.4.1～ H31.3.31

収入の部	1. 前期繰越金		481,921
	(1) 銀行預金	415,161	
	(2) 郵便預金	46,001	
	(3) 現金	20,759	
	2. 支部年会費		325,000
	(1) 振込み (82人)	164,000	
	(2) 総会時等入金 (10人)	20,000	
	(3) 寄付金 (65名)	141,000	
	3. 多賀工業会本部より支部支援金	80,300	80,300
	4. 支部総会		220,000
	(1) 懇親会費 (支部会員24人)	192,000	
	(2) 本部、他支部からの祝金	28,000	
	5. 広告収入		35,000
(1) 会報第55号 (株ユニキャスト)	10,000		
(2) 会報第56号 (株ユニキャスト、コラボウイズ(株)、(株)アシステック、アイブレイン(株))	25,000		
6. 利息	2	2	
	合 計		1,142,223

支出の部	1. 支部総会費		176,682
	(1) 会場費	149,580	
	(2) 来賓土産代	9,720	
	(3) 講師謝礼代	10,000	
	(4) 役員会会費	1,870	
	(5) 写真代・送料	5,512	
	2. 支部会報発行費用		454,430
	(1) 第55号 (印刷・送料、総会出欠ハガキ含む)	208,620	
	(2) 第56号 (印刷・送料)	245,810	
	3. 会合費		50,230
	(1) 中部支部総会出席 (H30.7.7) (行正幹事出席、祝金・交通費)	19,860	
	(2) 中国・四国支部総会出席 (H30.11.18) (萩原支部長出席、祝金・交通費)	30,370	
	4. 幹事会費		59,585
	(1) 上期：4回開催 (室代等)	37,870	
	(2) 下期：3回開催 (室代等)	21,715	
	5. 通信費 (総会出席返信ハガキ料金等) 61通	5,063	5,063
	6. 支部会費振込み手数料 81口	8,720	8,720
	7. その他		10,527
	(1) 支部活性化	0	
	(2) 事務用品購入等 (資料印刷等)	10,095	
	(3) 銀行振込手数料	432	
	支出計		765,237
	次期繰越金		376,986
(1) 銀行預金	332,791		
(2) 郵便預金 (振替通知書で管理)	27,581		
(3) 現金	16,614		
	合 計		1,142,223

会計担当 高橋 昌之 (精密 S44)
田桑 克己 (化学 S59)

平成30年度多賀工業会関西支部の会計は、すべて正確に報告されていることを認めます
会計監査 伊勢山 宏 (化学 S40)

平成30年度下期支部会費納入者名

平成30年10月1日から平成31年3月31日までに下記の通り7名の方々が支部会費を納入されました。上期納入者と併せて、平成30年度の納入者は92名です。紙上報告をもちまして、領収書に代えさせていただきます。納入ありがとうございました。(卒年順、敬称略)

- 会費納入者

平成30年度下期寄付者名

平成30年10月1日から平成31年3月31日までに下記の通り5名の方々に寄付をして頂きました。上期寄付者と併せて、平成30年度の寄付者は65名です。金額は141,000円です。寄付へのご協力有難うございました。紙上報告をもちまして、領収書に代えさせていただきます。

- 寄付者 (敬称略)

支部会員の皆様へ会費納入、ご寄付のお願い

■■■■■■ 現在の支部活動継続のためにご協力を ■■■■■■

会員の皆様には、日頃当支部の活動にご理解、ご協力を頂き感謝して居ります。活動の主な取り組みは、年2回の会報発行、支部総会開催、会員名簿編纂、同好会（ゴルフ会・ウォーキング会・セイリング会）であり、会報は当支部で把握しています会員全員に送らせていただいています。しかしながら会の運営は、会費だけでは繰越金が目減りしており、健全な運営となっていません。現在会員数は、約510名ですが、平成30年度の支部会費納入者は、92名と低迷しています。従いまして、令和元年度も、従来年会費に加え有志の方々に寄付をお願いすることで運営させていただきますので、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

活発な活動で会員の増加努力、経費の削減への取り組みを続けて行きます。

幹事一同、会員の皆様がこの多賀工業会関西支部に参加して良かったと感じられるように、出来るところから一つずつ取り組んで行きますので、今後ともご協力ご支援のほど、宜しくお願いいたします。

多賀工業会関西支部 支部長 萩原信男（院機械S50）

第22回 関西支部ゴルフ会

4月18日(日)に、昨年秋の会と同じゴルフ場ジャパクラシックCC(三重県)で春の関西支部ゴルフ会が開催されました。天気は上々申し分ないゴルフ日和に恵まれました。

朝名阪道を走っていると途中から結構濃い霧が出てきて着いたゴルフ場も霧の中、スタートが遅れているのではないかと心配しておりましたが予定通りに進行しているとのこと、我々がスタートする9時半には霧は完全に晴れ青空が現れ、結局1日中風も無い暖かい状態でラウンドが出来ました。朝霧は晴れの前兆、まったくその通りでした。

新緑の木々が目に染み、満開の山桜や山つつじが各所で目を楽ませてくれました。

参加者は(敬称略)及川紘(金S38)、黒澤清隆(精S40)、伊勢山宏(化S40)、船田順久(機S42)、櫛原稲人(電S43)、鈴木孝三(精S45)の6名でした。最初8名の参加申し込みがあったのですが、常連参加の新田さん(金S37)が腰痛で、高橋さん(精S44)が仕事の関係で直前に不参加となりチョッピリ寂しい会となってしまいました。

普通は70歳以上なのですが、関西支部では75歳以上は本人の希望で、レギュラーティより前でプレーが出来るフロントティを使用出来ることになっています。

今回該当者が5名居りましたが、3名だけがこの恩恵に浴してプレーをしました。

同じ場所のティグラウンドもありましたが大体20~40ヤード前から打つ事が出来る有利さがあり、1ホール



櫛原さん、船田さん



だけ90ヤードも前からのホールもありました。それでも3名とも良いスコアを出すことは出来ませんでした。体力の衰えが出た結果でしょうか?

プレー終了後風呂で疲れと汗を流し、ソフトドリンクを飲みながら表彰式を執り行いました。優勝は前回に続き櫛原さん、準優勝は船田さんでした。またニアピン賞は櫛原さんが3個も独り占めの結果でした。

今回ゴルフ場の「春のゴルフコンペ」に参加し、ボールマーカーが6個、缶ビールが24本提供され皆で山分けさせて貰いました。

鈴木さんから中部支部との懇親ゴルフ会の話がありました。予定しているのは信楽カントリーで、6月2~3日から9~10日で、1泊して翌日プレーする今までと同じスタイルでの会を計画しているとのことでした。近日中に皆さんにお知らせするとのことでした。

帰宅途中薄暗くなり点灯しての運転となりましたが無事に帰り付くことが出来ました。

それにしても今回は今までにない疲れを覚えました。残念ながら歳ですかね~

(記・伊勢山)



「セイリング同好会」のご案内

セイリング同好会は、以下の内容で月一回は開催予定です。

日程は調整になりますが、お気軽に連絡して下さい。

1. 対象 同窓生とその家族、未経験者でもOKです。
年齢は中学生以上OK、小学生は父兄同伴でOK
2. スケジュール 1月新春セイリング、4~12月(都度調整)
3. マリーナ場所 西宮浜 神戸マリーナ
4. 一回の人数 四人(ライフジャケットは準備済み)
5. 費用 フリー(飲食物は各自で用意)
6. 申込 気楽に萩原信男(院機械 S50)まで連絡ください。

TEL : 080-7016-9061

MAIL : nobuo12341234@yahoo.co.jp

ウォーキング同好会



第17回ウォーキング (平成30年11月11日) 「京都 東福寺」

紅葉の名所として有名な東福寺を皆で歩きましょうと計画したウォーキングです。11月半ばには紅葉が見頃と考えて日程を決めたものの、ウォーキングの当日11日時点では見頃から一週間程度早く色づき始めの状態でした。但し人気の観光地だけあって待ち合わせの京阪電車「東福寺」駅は多くの観光客で混雑していました。待ち合わせの午前10時、今回初参加の佐々木七朗さん(原動S34)を含め8名のメンバーが揃いました。

東福寺は鎌倉時代、ときの摂政関白・藤原道家が九條家の菩提寺として南都の東大寺と興福寺から「東」「福」二字を取って造営したとあります。駅から10分程度の距離にありますが、参道の左右にたくさんの塔頭が並び東福寺の威容を感じます。途中にある臥雲橋からは通天橋を眺める事が出来、多くの観光客が立ち止まって写真を撮っていました。色づき始めですが赤色の紅葉が広がっている様子が見られます。期待していた一面燃えるような赤ではありませんでしたが、しっかり秋を感じる事が出来ました。

東福寺通天橋は混雑していて団体行動は難しいと判断し待ち合わせ時間を決めて入園しました。せめて紅葉をバックに全員の集合写真を撮りたかったのですが良いポジションが取れず、露出不良な写真になってしまいました。(残念)



通天橋の看楓拝観コースは、敷地内の溪谷を下って行くと泉玉澗という小川が流れています。溪谷にはたくさんの紅葉が植えられていて間近にこれを鑑賞出来ます。玉泉澗を渡った後小道を登って向こう岸に着いた後、通天橋を渡って元の場所に戻って行きます。通天橋は先程通った臥雲橋の対面にあり、先程とは反対側から紅葉を眺める事が出来ます。私はすぐには通天橋を渡らず、奥にある



開山堂まで足を延ばしました。隣接する普門院には格子柄の模様を付けた白砂とその向こう見える緑のコントラストが美しい庭園がありました。パンフレットを見ると江戸中期の名園とありました。



東福寺の次は泉涌寺に向かいます。約2kmの距離ですが上り坂が続きます。



一行の先頭と後続の距離が離れてしまった事と時間も12時を回ったので、泉涌寺では自由行動の後解散としました。泉涌寺は皇室の菩提寺で、御寺と呼ばれて親しまれている真言宗の寺院です。入口の大門をくぐり「降り参道」と呼ばれる坂道を下ると正面に仏殿があります。仏殿で現在・過去・未来をあらわす三世仏を拝観した後、皇族が休憩所として使われた御座所で皇族が使われた調度品や写真を見学。また、休憩の際に眺められた御座所庭園の眺めを満喫しました。最後に敷地内に建てられている霊明殿唐門、仏殿、宝物館心照殿の外観を見学して本日の行程を終えました。



参加者(敬称略)
佐々木七朗(原動S34)、中村忠雄(電気S35)、下山正明(電気S36)、岡山伯匡(電気S36)、中島敬吾(電気S36)、齋藤和彦(化学S38)、樺島徹男(院機械S49)、田桑克己(化学S59)

第18回ウォーキング (平成31年3月31日) 「京都 淀川河川公園(背割堤地区)」

桜の季節のウォーキングです。目的地の淀川河川公園の背割堤地区は、宇治・木津・桂川の三川が合流して淀川に至る地点で、ちょうど宇治川と木津川がぶつかる境目の堤防に当たります。この堤は1.4kmにわたって220本の桜が植えられていて、人気のお花見スポットです。昨日からの雨で中止になるかと心配していましたが、雨も止み曇り空の下9名のメンバーでウォーキングを行ないました。

集合場所の八幡市駅から木津川の御幸橋を渡った所が背割堤です。御幸橋の上から堤に伸びている桜並木が眺められます。3分咲き程度でしょうか、満開には少し早かった様です。曇り空の間から時折差し込む日の光を感じながら堤の上を歩きます。堤の両側に桜が植えられていて桜のトンネルを潜っているようです。遠目では寂しく感じた桜の花びらも、近くで見るとそれなりに見応えがあってお花見気分を味わう事が出来ました。

次は飛行神社に向かいます。この神社は、明治期に日本初の飛行機（無人）の飛行に成功した二宮忠八氏が航空安全と航空業界の発展を祈願して創建した神社です。敷地内には海から引き揚げられた零戦のエンジン部分（プロペラが残った状態）と航空自衛隊の練習機のジェットエンジンが展示してありました。飛行神社にお参りした後、男山ケーブル乗り場に向かいました。

男山ケーブルに乗って3分で石清水八幡宮のある男山山上駅に到着します。空模様が怪しくなって来たので急いでお弁当にしました。男山山上には京都の竹からフィラメントを作り、発熱電灯を実用化したエジソンの記念碑があります。広場の中心にはコンクリートのモニュメントが立っています。説明の看板が無いのでフィラメントを模しているのではないかと勝手に想像します。アメリカから遠く離れた日本の素材が電球の普及に役に立ったとの知識はありましたが、そこに至るまでの過程を考えると不思議な感じ



がします。

さて、都の裏鬼門を守護する石清水八幡宮は日本三大八幡宮の一つとされています。本殿、摂社武内社本殿、瑞籬、幣殿及び舞殿、桜門などの建築物が平成28年2月に国宝に指定されました。建築様式は分からないものの、国宝の桜門にお参りました。石清水八幡宮の周辺を散策したり男山展望台から景色を眺める時間を持ちたかったのですが空模様が怪しくなったので早々に男山山上からケーブルで下山し、午後1時前に本日のウォーキングを終了しました。

参加者（敬称略）

中村忠雄（電気S35）、下山正明（電気S36）、岡山伯匡（電気S36）、中島敬吾（電気S36）、齋藤和彦（化学S38）、加藤紘（化学S39）、石毛忠志（機械S40）、伊勢山宏（化学S40）、田桑克己（化学S59）



●ウォーキング同好会 今後の予定

次の通り一年間の予定を立てました。ご家族同伴の参加も大歓迎です。今回は来年（令和2年）5月に一泊で葛城山のつつじを見に行く計画を立てています。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

	予定日	目的地	ウォーキングコース
①	令和元年9月8日(日)	大阪 中之島	中之島の建築群をめぐって歩く街歩きです。(半日コース)
	集合時間10時00分	約2km 歩行時間1時間30分	淀屋橋駅(淀屋橋南詰)→淀屋橋・大江橋→日本銀行大阪支店→大阪市役所→中之島図書館→中央公会堂→銚流橋→水晶橋→佐賀藩蔵屋敷跡・舟入跡復元遺構→大江ビルヂング・堂島ビルヂング
集合場所：地下鉄淀屋橋6番出口 淀屋橋南詰 (ミズノ店舗の道を挟んだ向かい側)			
②	令和元年11月24日(日)	滋賀 日吉大社	滋賀県では日吉大社が紅葉の名所です。比叡山のふもとと坂本の名所をめぐります。
	集合時間9時30分	約3km 歩行時間2時間	京阪坂本駅→滋賀院→日吉東照宮→日吉大社→旧竹林院→坂本駅
集合場所：京阪石山坂本線 坂本駅 拝観料：滋賀院450円 旧竹林院310円			
③	令和2年5月16日(土) ～5月17日(日)	奈良 葛城山	一目百万本と呼ばれる葛城山つつじ園を訪問します。16日(土)夕方に葛城山に入り翌日つつじを鑑賞します。宿泊：国民宿舎 葛城高原ロッジ (TEL0745-62-5083) 宿泊費：一泊二食10,000円 集合場所からの交通費 バス(奈良交通)片道290円 葛城ロープウェイ往復1,500円
	集合時間15時00分		近鉄御所駅(バス)→葛城ロープウェイ前(ロープウェイ)→山上駅→国民宿舎葛城高原ロッジ
集合場所：近鉄御所駅 ロッジの予約があるので令和2年2月末までに参加希望をお知らせ下さい。			

その他

- ②ウォーキングが出来る服装、靴をご準備願います。
- ②昼食(11月の日吉大社のみ)・飲み物は、各自ご持参ください。
- ③雨天の場合は中止とします。実施の場合でも雨が降る場合もあるので雨具(折り畳み傘等)はご持参ください。但し、来年5月の葛城山はロッジの予約がありますので雨天でも決行します。
- ③集合場所は、各コースの出発地点の駅前とします。
- ④葛城山以外は参加申し込みは必要ありません。当日の飛び入り参加も歓迎します。Mailにて連絡を頂ければ、事前に地図等資料を送付する予定です。

また、雨天時の実施問い合わせ等も、田桑(携帯:090-1143-1820, Mail:nre19213@nifty.com)までお願いいたします。
田桑克己(化学S59)

大学の話題

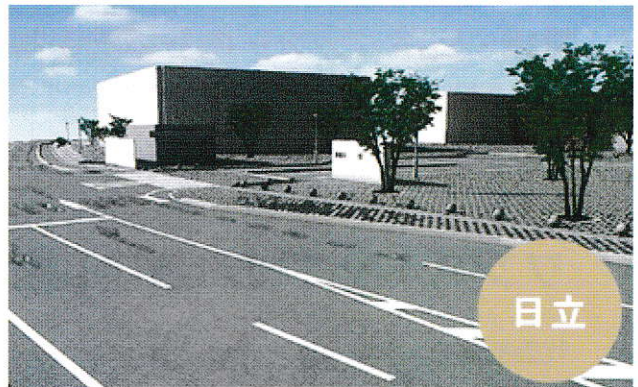
TOPICS

行正 隆俊（機械S54）

大学のホームページ関連で、幾つか目についたものを紹介します。

1 茨大創立70周年記念工学部正門整備関連のこと

茨大創立70周年記念事業として、正門付近が整備され、より開かれたキャンパスに生まれ変わります。また、正門前道路の拡張工事が10月に行われる国体に合わせて行われます。第74回いきいき茨城ゆめ国体ですが、工学部近くで行われる競技は、運動公園野球場で軟式野球、池の川さくらアリーナで、バスケット、卓球、体操です。



2 2018こうがく祭の目玉

- ・学生フォーミュラ部が、レース用自動車のフォーミュラカーを作り展示、走行。
昔は「自動車部」で自動車を展示していました。今は立派なフォーミュラカー。
- ・プロジェクションマッピング&デジタルワークス
プロジェクションマッピングは、日本に入ってきて一般に見ることが出来るようになったのは数年前と思うのですが、大学祭で実施できるのは、大したものですね。



3 2017年度進路状況

ホームページにある、2018茨城大学データブックから引用しました。
工学部では、515人中295人が進学、民間に就職が181人、公務員23人、その他16人でした。他学部に比べて特徴的なのは、過半数が進学という点です。近年の傾向です。業界別では、製造業80人、情報通信56人、建設業20人が主。

4 水戸キャンパス徒歩5分の食堂「宝珍楼飯店」、2019年2月27日に閉店。

31年の歴史に幕。地元新聞にも取り上げられ、卒業生も駆けつけて3～4時間待ちの行列だったそうです。



編集後記

令和元年にあたり、読み易さも考慮して、今回会報サイズをA4化しました。カラー化も好評であり、会員の方々に楽しく読んでいただけるように改善します。今回は旅行記2件と仕事で思うことの1件を投稿していただきましたが、会員の皆様に会員状況等をお伝えしたいので、気になる事や、趣味の状況や作品、感動したことなど会員の皆様からの投稿や情報をお待ちしています。

川上 啓二（機械S50）